



農場、関連施設に、鳥インフルエンザウイルス、豚熱ウイルスを

持ち込まない

広げない

持ち出さない

持続可能な日本の養鶏・養豚産業のため 業界に関わる全員が防疫対策の基本を徹底しましょう

国内複数の養鶏場で鳥インフルエンザが発生しています。

10月以降、全国の野鳥にて鳥インフルエンザの発生が確認されており、リスクが高まっています。

国内農場での鳥インフルエンザ発生状況

高病原性鳥インフルエンザの発生・感染報告状況 (2022年9月以降)
※WAHIS等への報告に基づく最終発生・感染報告日を記載



昨年度は26道県84事例1,771万羽の殺処分と事例数・殺処分羽数とも過去最多でした。また、国内のみならず海外でも広く発生が確認されています。

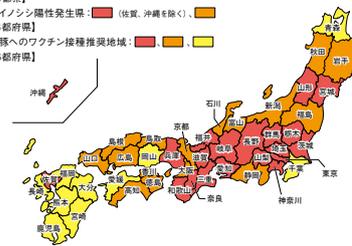
2022年9月以降に最終発生又は継続発生の報告がある国・地域
出典:WAOH等

※番号は発生期

豚熱ウイルス (CSF)は、九州まで広がっています。

野生イノシシでのCSF検出の有無に関わらず、防疫対策を徹底することの重要性が示唆されています。

飼養豚陽性発生県: [20都県]
野生イノシシ陽性発生県: (佐賀、沖縄を除く)、 [34都府県]
飼養豚へのワクチン接種推奨地域: [46都府県]



2023年8月31日までに、**20都県89事例37万頭**が殺処分されています。令和5年8月29日、野生イノシシではCSFが未検出であった九州(佐賀県)の農場で初のCSFが発生しました。

鶏舎・豚舎は家畜防疫の最後の砦、徹底強化でウイルスの侵入を防ぎましょう

豚科学飼料研究所、全農畜産サービス㈱では、防疫に関する様々な資料を取り扱っています。

野生動物の侵入防止対策



畜舎の開口部、隙間、防鳥ネットの穴は必ず対策し、野生動物の侵入を防ぎましょう。フェンスの設置、近隣の除草や水辺の防鳥対策も重要です。

畜舎への病原体防止対策



踏み込み消毒槽の前に、ブラシで長靴の汚れを落として消毒効果をUP

③ 鶏舎専用長靴で入場 ② 外履き履き替え ① 外履きの消毒
長靴の履き替えはスノコを使って交差汚染を防ぎましょう。

防疫対策資材の効果的な利用で消毒効果を高めましょう



フィーネナチュラルFNPパウダー
逆性石けんのアルカリ化で消毒効果の強化

グロリアフォームマスター
効果の高い発泡消毒!

リトアクア
消石灰の効果を目視で判断(青○ 赤紫〜赤×)

PH12以上 石灰効果あり
PH11以下 石灰散布推奨



全農畜産総合情報サイト「JACC ネット」では、分かりやすい家畜防疫に関するコンテンツを多数用意しています。農場従業員の方への研修用としてもご利用できますので、ぜひ活用ください。



家畜防疫のとりくみ

動画での防疫マニュアルはコチラから



飼養衛生ガイドブック

養鶏 養豚

中央畜産会、農水省、JA 全農等で作成